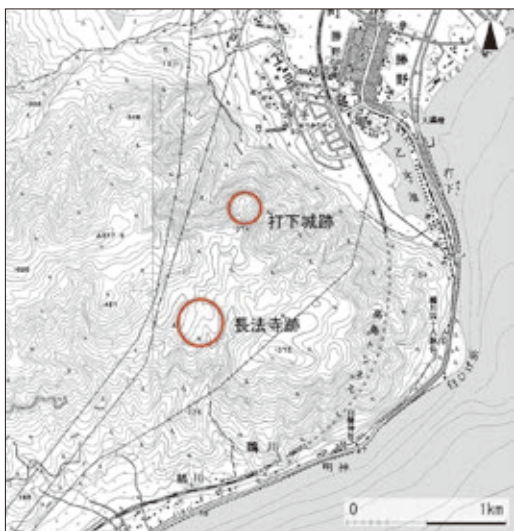


天台宗寺院 長法寺跡

高島七力寺の長法寺

長法寺跡に残る寺院遺構

天台宗は、平安時代に比叡山延暦寺を開いた最澄が唐から伝えた仏教の宗派で、当時の高島でもその教えが広まり、天台宗寺院が建立されていったと考えられます。その主な寺院は「高島七力寺」と呼ばれ、長法寺はその一つに数えられています。勝野にある日吉神社が、嘉祥2年(849)に長法寺を護る神を祀る神社として建立されていることから、長法寺の歴史は平安時代前期までさかのぼることができます。



その長法寺は、鵜川(うがわ)の長宝寺山の山中にあり、高島七力寺の中で唯一その所在が確認できている寺院跡です。昭和30年代に行われた調査でその規模と構造が明らかになりました。長宝寺山の南北に延びる尾根上には本堂跡、僧坊跡、鐘楼跡が順に並んでいます。本堂は礎石の配置から約17m×11mの大きさであったと推定され、本尊の台座に使われていたと考えられる石も残っています。本尊は、音羽にある長谷寺に安置されていた



僧坊跡の石積

薬師如来坐像(国重要文化財)とされ、長法寺が火災に見舞われた際に運び出されたと伝わっています。本堂周辺では、瓦が見つかっていないことから建物は瓦葺ではなく柿葺きであったと考えられます。本堂の南には石段があり僧坊跡へと続いています。僧坊跡は、斜面を利用し三段程度で構成され南北に細長く配置されています。ほかに庭園遺構や石塔の部材などが確認されています。約250m四方にわたる範囲を持った長法寺ですが、いつどのように廃絶したかは明らかではありません。

長法寺跡に残る城郭遺構

室町時代後期になると有力者たちは平地の居館とは別に有事に備えた山城を築いていきます。山城は山岳寺院を利用することがあり、市内の山岳寺院も城郭化されているところがあります。長法寺跡の東側の一部には、土塁や堀切など城郭の防御施設と考えられる遺構が確認されています。これらの遺構から長法寺そのものが城郭化されたと言いつけることはできませんが、その周辺を長法寺跡と区別して長法寺城跡と呼んでいます。



石塔の基壇

また、この長法寺城跡は、すべ北側にある打下城の関連遺構とも考えられています。

長法寺跡に残る遺構からは、当時の僧たちの信仰と生活のようすが垣間見ることが出来ます。

文化財課 (25) 8559

編集感

蒸し暑い日が続きますが皆さんいかがお過ごしでしょうか。『みんなで575』コーナーでは毎月たくさんのご応募をいただき本当にありがとうございます。575という限られた文字数で、さまざまな表現がされていていつも楽しく拝見しています。さらに今月は、本庄小学校から届いた夏らしくてかわいらしい575を紹介させていただきました。世代を超えて楽しめる言葉遊び、皆様のご応募をお待ちしています!(Y.H)



広報たかしま

令和2年

8

月号 No.247

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp